

# 藤本純吉の蒐集した加賀藩医学館関係者の写真について

著者	板垣 英治
journal or publication title	北陸医史
volume	36
page range	20-35
year	2014-02-20
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2297/36975">http://hdl.handle.net/2297/36975</a>

## 藤本純吉の蒐集した

### 加賀藩医学館関係者の写真について

金沢市 板垣英治

金沢市立玉川図書館・近世史料館には、藤本純吉が蒐集した貴重な写真が数多く保存されている(1)。その中には金沢医学館の第1回生の集合写真があり、金沢の写真家吉田好二により撮影されたものであることが明らかとなった(2)。

本稿ではこの蒐集の中から、医学館関係者の写った幾つかの写真を紹介し、さらに明治初期の金沢の写真館についても記載する。特にこれまでは、医学館関係者の氏名を文字情報で認識していたが、この程見つかった写真からその人物の映像情報が得られ、両者の組合せにより、関係者を認識するための情報量が格段と増加した。このことは北陸の医学史の上で重要な事柄である。

#### 卯辰山(向山)写真館

先ず始めに、医学館関係者の写真を撮影していた写真館

の場所と撮影者名をまとめた(表1)。卯辰山養生所が慶応三年に開設して、その舎密局に高峰元稔、遠藤虎次郎、堤文次郎、吉田好二らが務めていた。写真1はこの養生所の全貌を写したものである(3)。遠藤は長崎から金沢に来た人で、写真術を既に身につけていた(4)(5)。明治二年十二月から明治四年三月晦日までの事柄を記録した『御手留抄』の第三巻に、明治三年二月十四日の記事に吉田に関する重要な事柄が記載されて居る(6)。

一、吉田好之助義 先達而御達申し上げ候通り、写真局にて試験為仕候処、御用立の者御座候間、写真掛被仰せ渡、市政局へ掛渡り候様仕度候間、御聞届けの上至急卒族方へ被伝え渡様仕度候事。

市政掛

吉田好之助は吉田好二と見られる。彼の写真術の技術試験が、「写真局」で行われた。その結果、吉田は十分に御用立ち之者(写真撮影を十分に行う事が出来る者)と「写真掛」より評価された。この事は市政局へ伝えて、さらに急いで卒族方へも知らせたとある。

先ず「写真局」は養生所内に在り、ここで遠藤虎次郎が吉田に写真術を指導していた。「写真掛」はこの写真局の維持の為の事務を担当したものと見られる(5)。

写真2は遠藤が「写真局」で撮影した藩士の写真と見られる(7)。この写真局が向山写真館の前身であり、明治二年から三年頃に、遠藤と吉田がこれを向山写真館として開業した。この写真館の常客は、東山の花街の女性達であった(5)。

表1. 明治の金沢の写真館

卯辰山養生所舎密局 高峰元稔、丘村隆幸、旗文次郎、

\*遠藤虎次郎、吉田好二(慶応三年)

同 養生所写真局 遠藤虎次郎 (明治三年)

向山写真館(養生所近所) 遠藤虎次郎、吉田好二(明治三年頃)

年頃)

日新亭写真館(大手町角) 経営者不詳(明治七、八年頃)

桃葉軒写真館(殿町) 遠藤虎次郎 (明治四年頃)

吉田好二写真館(観音町、御徒町) 吉田好二

兼六写真館(兼六園内) 小松幸陽

(同じ場所に同名の写真館が現存する)

上田兄弟館(下今町、現味噌蔵町) 上田辰吉と弟の富吉

小池写真館(殿町) 小池兵治

\*舎密局に居た遠藤は長崎で写真術を学んでいた。

遠藤が養生所に来た経由は不詳である。

スロイスとホルトルマンの写真

スロイスの写真についての記事が、明治三年一月五日の『御手留抄』第三卷に掲載されている(8)。

この度雇い来られる蘭人の第一等ドクトルの

写真一枚が、岡嶋より指し出し上げられた。

宜敷旨申し聞き候。

岡嶋喜太郎は伍堂卓爾と共に、明治二年に長崎を発ち、

医学教師の雇傭のために渡欧の旅に出た人物である。但し、彼は任務を伍堂に託して、上海から帰国していた(9)。

アムステルダムでスロイスの雇傭契約を行ったのは伍堂であり、同年十二月二十八日に長崎に帰国、三年一月三日に

金沢に到着した。直ちに学政所大属岡嶋喜太郎、同岡田与

市に詳細諸事を報告した。この写真はスロイスの雇傭契約

の時に受取って持ち帰ったものであり、上司である岡嶋に

手渡されたと推定される。このスロイスの写真が、オランダ

での彼との雇傭契約の報告書と共に藩庁に提出された。

明治四年に医学館が大手町に開館して、スロイスによる

オランダ医学の教育が始まった。

『御手留抄』第十二卷には、明治四年三月十九日午後三時から医学館の開館記念式が講堂において、知事の出席のもとに挙行されたことが掲載されている(10)。

ついで、明治四年三月廿九日に、

一 巽殿江二字異人出候間 其の節直に申入れ度様  
一 明後二日 スロイス夫婦伺い出候 其節 先日

同様の様にと申事

但し妻も出て写真持参の筈

とあり、スロイスの写真が金沢に到着して直ぐに撮影されていたことを示唆して居る(11)。

スロイスと医学館職員の集合写真及び医学館生徒九名の集合写真がこの時の写真と推定される。これは観音・御歩町の写真家吉田好二によりに撮影されたものである(2)。

大手町角には「日新亭」があり、スロイスとホルトルマンの肖像写真を撮影していた。この写真館を経営した人物に関する資料は未見である。この写真が唯一のオランダ人教師の肖像写真である。この写真を拡大したものが医学部記念館のスロイスとホルトルマンの大きな写真である。医学館の裏通りである殿町には遠藤虎次郎が写真館「桃葉軒」を開業していた。遠藤は医学館の玄関先で、大田美農里、田中信吾、津田淳三、伍堂卓爾と大勢の生徒達の集合写真を撮影していた(写真3)。残念な事にこの写真を撮影した年月は不詳である。

吉田好二が撮影したホルトルマンと医学所職員達との集合写真がある(写真4)。伍堂卓爾以外の職員九名がホルトルマンと同様に、洋装していることが注目される。

明治九年頃の撮影と考えられる。この職員達では長身の伍堂卓爾は確認できるが、他の人の確認は困難である。

小池兵治も写真館を殿町に開いていた。医学所の建物の横で撮影したと見られる写真がある(写真5)。この写真には二十二名の職員が正装して、さらに手には帽子を持つて居ることから、何らかの儀式が行われた時の記念の写真であると見られる。恐らく此の写真は明治十一年十月三日に明治天皇の医学所ご臨幸の時の記念写真と考えられる。

#### 尾山病院の写真

兼六園内の噴水の前には、小松幸陽が「兼六写真園」の店を開いていた。この事は『日本三公園兼六園鳥瞰図』(写真6)に噴水の右側に「兼六写真園」と記載されている(12)。この場所には、今も写真館「兼六写真園」があり、営業している。この小松が、明治三十四年九月に再建された尾山病院の開院した記念日に写真を撮影していた(写真7、写真8)。再建された尾山病院の正面からの写真7により、新病院は二階建てで、玄関の二階にはベランダがある洋風建築であることが分かる。尾山病院は明治十八年の開院当時は木造平屋建てであつたが、同年に近所の火災による類焼で全滅した(13)。

この再建された建物の型式は大きく変わっていた。十六

年間に金沢の建築物に、洋風の様式が多く取り入れられていたと考えられる。二階のベランダに立つ二人の看護師は写真8に最後列の真ん中に並んで写っている。前列の左から3人目は藤本純吉院長で、その右隣は伍堂卓爾前院長である。その右横は不破鎖吉医師である。伍堂卓爾は明治三十一年四月から院長であったが、三十四年三月に退任して、藤本純吉が院長職に就いた、半年後に病院の再建がされた。当時の職員として医師には、村上直恵、杉江鉄男、古丸藤三郎、小西元碩、薬剤師に辻豊儀らが在籍していたが名前と写真との照合は不可能である(14)。明治三十年当時に尾山病院には年間一万五千人の外來患者があつた。ところが職員の高齡化により本院は大正元年(一九一二年)十二月三十一日に閉院された。

小松幸陽は大正七年まで兼六園内で營業していたが、閉店して弟子であつた宇田外次に建物及び屋号を譲つたと考えられる。外次の曾孫である宇田渉が現在の店主となつてゐる(15)。

### 大田美農里七十七才記念会

明治四十年に大田美農里翁・七十七才記念会が開催され金沢医学館、医学所の関係者や同窓生が大勢集い、盛大なお祝いが行われた。その際に下今町(現在・味噌蔵町)の

上田兄弟館(上田辰吉と富吉)により集合写真が撮影されていた(写真9)。この写真の大田美農里の写真を拡大したところ、胸には明治二十九年四月に受賞した藍綬褒章が添えられていた(写真10)。大田はこの二年後、明治四十二年十月二日に他界した(16)。

### 春秋会記念写真

明治四十二年五月八日に粟津温泉の「\*善悟楼」(現・旅館法師)で開催された春秋会で小松の写真家小竹和一により記念写真が撮影されていた(写真11)。

本会は参加者の顔ぶれから金沢藩医学館の卒業生の同窓会と見られる。記念写真には藤本純吉を中心にして出席した19名が撮影されている。さらに欠席した会員6名の写真が添付されている。

この写真の裏には参加者、欠席者の氏名が記載されている。但し、写真と裏面の名前順は左右が逆である。さらに春秋会の会員を医学館の入学年度順に分類した表を作成した(表2)。

表2. 春秋会の会員の医学館  
入学年度による分類.

1.	藤本純吉	不破鎖吉	
2.	関川潤吉	清水衛	山本貞次郎 渡辺末二
3.	国分又勝	庄田喜太郎	中山泉 米田百太郎 田中守平
4.	金子治郎	河崎規矩	
5.	松井宣正		
6.	上田計二	勝見正成	山田忠之 斉藤和三郎 林與一郎
7.	中島莽雄		
<hr/>			
	山内勇太郎	田原 利	堀江勝二 村田太次郎 疋田準吉

この分類作業により、下線以下の五名が、入学年度が不明となった。この五名を明治二十六年に石川県が作成した「医師・薬剤師名簿」(17)で照合した結果、山内勇太郎は江沼郡塩屋村、文久元年生、村田太次郎は金沢・百姓町、元治元年生、疋田準吉は金沢・河原町、安政三年生、であり、田原 利は東京市牛込区神楽町、安政六年生(18)、であることが明らかとなった。堀江勝二については不詳である。四名の生年からは大凡の入学年を推定することは出来るが、確定は出来無い、これら五名を『医学館・医学所・医学学校に在籍した生徒氏名』(19)に加える必要がある。

\*「法師」では二代目から現四十六代目に至るまで、代々の当主は「法師善五郎」を襲名し、これに因んで旅館の正式名称は「善吾楼」としている(ネットより)。

今回の春秋会の催しには、医学館の第1回入学生藤本と不破から、第7回入学生の中島までが出席していた。春秋会会員の氏名、居住地、生年月、旧町名ものは現在の町名が明らかになり、表3に示した。写真12により、五名の卒業生の氏名が新たに明らかになったことは大きな収穫である。なお、藤本の写真蒐集箱(1)には、春秋会の当日の宴会の様子を撮影した写真もあるが省略した。

写真12及び写真8の映像を基に、まだ一部の人の写真であるが、個人の映像と氏名の組合せを行った(写真14)。この写真により、医学館関係者の氏名と顔写真から、新たな情報を記憶に留めることができる。

## 考察

江戸時代に我が国に到来した写真術は、金沢では先ず卯辰山養生所の舎密局に取り入れられ、「写真局」が置かれていた。一方、大野弁吉によっても写真術がこの地に取り入れられていた。舎密局にいた遠藤虎次郎が写真局の担当で

表 3. 春秋会会員の名簿

入学順	氏名	現住所	生年	
1.	藤本 純吉	金沢・袋町	嘉永3年4月生	
	不破 鎖吉	金沢・野町1丁目	嘉永4年12月生	
2.	関川 潤吉	石川郡山嶋村字安芸	安政3年9月生	
	清水 衛	金沢・白銀町	安政2年4月	
	山本 貞次郎			
	渡辺 末二	石川郡山城村		
3.	国分 又勝	能美郡小松町字龍助町	安政5年1月生	
	庄田 喜太郎	金沢・		
	中山 泉	石川郡比楽島村字水島	安政3年1月生	
	米田 百太郎	石川郡美川町	安政5年8月生	
	田中 守平	石川郡栢野村字上栢野	安政2年4月生	
4.	金子 治郎	金沢・		
	河崎 規矩	金沢・宝船路町	安政4年5月生	(東山1, 2町)
5.	松井 宣正	金沢・新堅町3丁目	安政4年閏1月生	
6.	上田 計二	金沢・下百々女木町	文久2年8月生	(宝円寺町)
	勝見 正成			
	斉藤 和三郎			
	林 與一郎	鹿島郡七尾町字生駒町	安政5年9月生	
	山田 忠之	能美郡福江村字五間堂	安政3年3月生	
7.	中島 莽雄			
<hr/>				
	山内 勇太郎	江沼郡塩屋村	文久元年6月生	
	村田 太次郎	金沢・百姓町	元治元年5月生	(幸町1, 2町)
	疋田 準吉	金沢・河原町	安政3年9月生	(片町1, 2町)
	田原 利	東京市牛込区神楽町	安政6年生	
	堀江 勝二			

写真11の医学館卒業生氏名をもとに、「明治26年・石川県医師・薬剤師名簿」

(17)より、それぞれの住所及び生年の資料を得て本表に記入した。

点線の下の名は、『金沢大学医学部創立150周年記念誌』の第四章の表1.「医学館、医学所、学校に在籍した生徒氏名」に記載されて居なかった生徒である。

田原利は文献18より得られた資料である。堀江に関する資料は未見である。

あり、吉田好二は見習いであつたと見られる。明治三年二月に吉田は写真技術試験を受けていた。その後、二人は共に向山写真館を興し、地の利を得て、藩士や花街の女性達を撮影していた。この二人に次ぎ小松幸陽、小浜兵治らも営業写真を始めた。明治四年三月に医学館が大手町に開館されると、大手町に日新亭、殿町に桃葉軒（遠藤虎次郎）、小浜写真館などが集中して開業していた。当時の石川県の統計資料によれば「写真館数 八」と記されている（20）。今回の調査で、『御手留抄』に医学館関係の事項が多く記載されていることが明らかになった（6、8―11）。特に伍堂卓爾がスロイスの写真を、アムステルダムから持ち帰り、明治三年一月五日に岡嶋に会い、藩庁にこの写真を提出していたことが、初めて明らかとなった。

医学館関係者の写真は、スロイスの肖像写真と、ホルトルマンの肖像写真は日新亭により撮影されていた。さらにスロイスと医学館職員の集合写真および医学館生徒9名の集合写真は吉田好二により観音・御徒町の写真館で撮影されていた。当時、職員及び生徒は全て和服であり、腰には脇差しがあつた。これがホルトルマンとの写真では、職員一同は洋装した姿に代わっていた。まさに明治の文明開化を地で行くものである。さらに写真5では、洋風に正装して、手には帽子を持っている。この写真の正確な撮影月日

は不詳であるが、何らかに記念日であることが分かる。恐らく、明治十一年十月三日の明治天皇の医学所へのご臨幸の時記念に撮影されたものと推定される。

明治三十四年九月に、再建された尾山病院の貴重な記念写真が小松幸陽により撮影されていた。尾山病院は明治十八年に開院された金沢で最初の私立病院であり、オランダ医学を学んだ医師達により患者の治療が行われていた。西洋様式で建築された新病院で、藤本純吉院長により再出発したのである。当時の本病院のスタッフの喜びの姿がこの一枚の写真に残されていた。伍堂卓爾の正面からの映像はこの写真にのみ見る事ができる（写真8）。

春秋会記念写真（写真10）には、19名の会員の姿が記録されている。会員の構成から石川県内に在住する医学館卒業生の同窓生の交流会と見られる。この写真により初めて卒業生24名の氏名と姿を目にし、さらに住所の調査により、彼らが県内に広く分布して居住して地域の医療に貢献していたことが初めて明らかとなった。さらに、本史料により、新たに5名の卒業生を「医学館・医学所・学校に在籍した生徒氏名の名簿」（19）加えることになり、大きな成果である。

卯辰山養生所から始まり、医学館、医学所の関係写真の調査により、貴重な映像資料が蒐集され、これまでの文字



文字史料とは大きく違った大量の情報を北陸医学史に書き加えることが出来た。

## 写真

写真は総て金沢市立玉川図書館近世史料館蔵である。

例外、2は『石川印刷史』、県立図書館蔵。

4は金沢大学医学部記念館蔵である。

1. 卯辰山養生所全景、『金沢市民読本』、前篇、(昭和三年)52頁、090-1078-6.
2. 藩士の像、遠藤虎次郎撮影、向山写真局、明治初年、『石川県印刷史』、(1980)43頁.
3. 医学館正面、大田美農里ら教師と医学館の生徒の写真、遠藤虎次郎撮影、桃葉軒、撮影年不詳、096.0-528-4.
4. ホルトマンと医学所職員、明治9年ころ、吉田好二撮影、特096.0-527.
5. 医学所職員集合写真、小池兵治撮影、明治十一年十月か、明治天皇の医学所への臨幸の時と推定、096.0-528-2.
6. 「日本三公園兼六園鳥瞰図」大正年間、大友文庫、1143. 小松幸陽の写真は『石川県印刷史』(1980)、51頁.

7. 尾山病院写真、明治三十四年九月、小松幸陽撮影、特096.0-530.

8. 尾山病院の職員集合写真、明治三十四年九月、小松幸陽撮影、特096.0-530.

9. 大田美農里翁・七十七の賀宴記念写真、明治四十年、上田兄弟館撮影、特096.0-531.

10. 写真9より大田美農里像を拡大した写真.

11. 春秋会記念写真、明治四十二年五月八日、小松・小竹写真館撮影、特096.0-538.

12. 写真11の裏面、参加者氏名、特096.0-538.

13. 8と11より編集した医学館関係者の個人映像.

14. 「石川県の華」行啓記念写真誌、中村孝逸編、明治四十二年、096.0-92.

## 文献

1. 藤本文庫、金沢市立玉川図書館近世史料館蔵、096.0.
2. 赤祖父一知、山本健、山本博、『北陸医史』第35号、6頁、平成25年.
3. 『金沢市民読本』前編、52頁、昭和3年、金沢市立玉川図書館近世史料館蔵、090-1078-7.
4. 藤本純吉、『石川県医学沿革記』、金沢市立玉川図書館近世史料館蔵、096.0-172.

5. 「渡辺格二から不破鎖吉への書簡」，金沢市立玉川図書館近世史料館蔵。

6. 『御手留抄』三，142頁，明治三年二月十四日，金沢市立玉川図書館近世史料館蔵。

7. 『石川県写真史』，（一九八〇），43頁。

8. 『御手留抄』三，6頁，明治三年一月五日，金沢市立玉川図書館近世史料館蔵。

9. 伍堂卓爾「一世紀事」，金沢市立玉川図書館近世史料館蔵。

10. 『御手留抄』十二，16頁，明治四年三月十九日，金沢市立玉川図書館近世史料館蔵。

11. 『御手留抄』十二，16頁，明治四年三月廿九日，金沢市立玉川図書館近世史料館蔵。

12. 「日本三公園兼六園鳥瞰図」，年代不詳，大友文庫1143。金沢市立玉川図書館近世史料館蔵。

13. 尾山病院平面図，「尾山病院関係資料」，金沢市立玉川図書館近世史料館蔵。

14. 尾山病院職員資料，「尾山病院関係資料」，金沢市立玉川図書館近世史料館蔵。

15. 小松幸陽，『石川県写真史』，一九八〇，51頁。

『石川県写真史』によれば，宇田外次（明治三十一年五月九日生，昭和四十一年六月十六日没）が，大正七年に小

松の後を継いで現在地にて営業を始めた。外次は小松幸陽に弟子入りして，写真術を学んでいたとみられる。

16. 『金沢大学医学部創立百五十周年記念誌』，（二〇一二），40頁。

17. 「石川県医師並薬剤師名簿」，石川県，明治二十六年，金沢市立玉川図書館近世史料館蔵。096.0-11.

18. 「明治八年から十六年までに実施された内務省医術開業試験について」，樋口輝雄，一九九九年。

第一〇〇回日本医史学会総会資料，84頁，  
免許番号 4869.

19. 「医学館・医学所・医学校に在籍した生徒氏名」，「金沢大学医学部創立百五十周年記念誌」，（二〇一二）55頁。

20. 『石川県史資料・近代編』十七卷，統計資料，（百八十九頁）425頁。



写真1. 卯辰山養生所，写真銅板，  
金沢市民読本・前編，52頁，昭和3年，  
金沢市立玉川図書館近世史料館蔵。  
本写真の銅版板も架蔵されて居る。



写真2. 「藩士の座像」，遠藤虎次郎撮影，  
向山写真館，明治初年，石川県写真史，（二九八〇）  
43頁，石川県立図書館蔵。



写真3. 医学館正面での大田美農里ら教師と医学館の生徒の集合写真，遠藤虎次郎撮影，桃葉軒写真館，撮影年月 不詳，金沢市立玉川図書館近世史料館蔵。最前列に左より五番目に，伍堂卓爾，津田淳三，大田美農里，田中信吾の順に着席している。



写真4. ホルトルマンと医学所職員，明治九年頃，吉田好二撮影，金沢大学医学部記念館蔵。  
後列左端は伍堂卓爾，前列左から田中信吾，不詳，ホルトルマン，馬嶋健吉，津田淳三と推定，要確証。

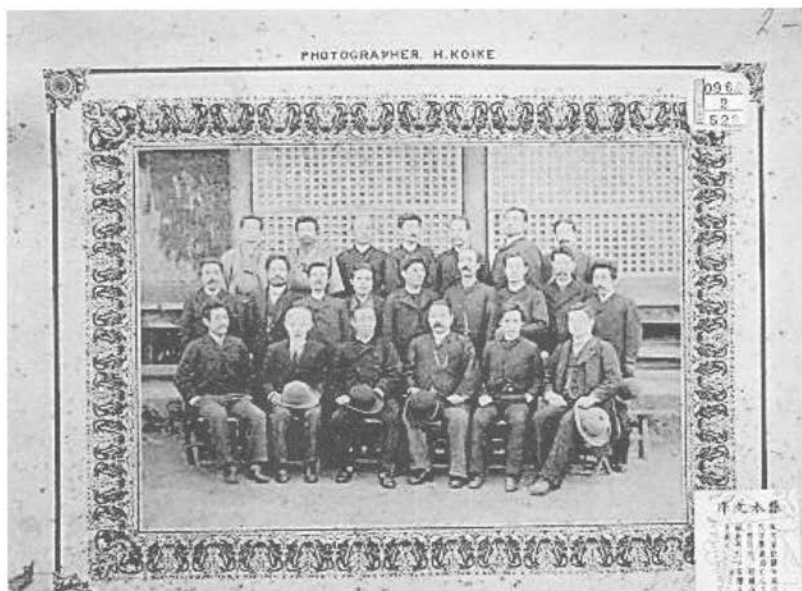


写真5. 医学館の建物横，医学所職員集合写真，明治11年10月，明治天皇の医学所へのご臨幸の時と推定，小池兵治撮影，金沢市立玉川図書館近世史料館蔵。

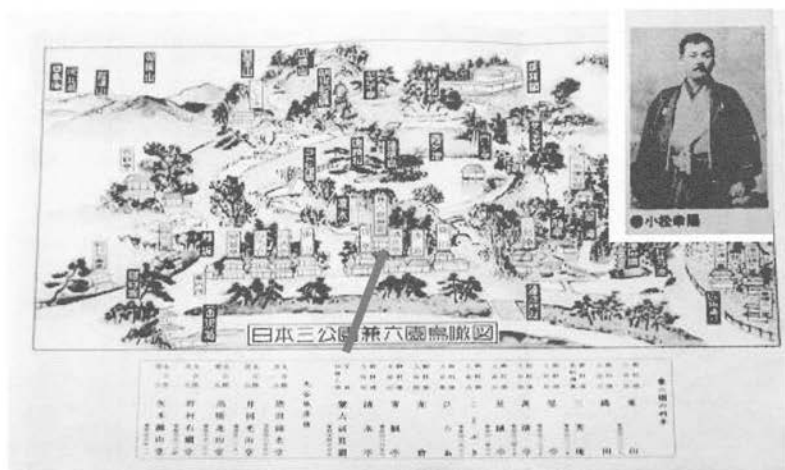


写真6. 小松幸陽と「日本三公園兼六園鳥瞰図」，作成年不詳，金沢市立玉川図書館近世史料館蔵。小松は「石川県印刷史，51頁」。

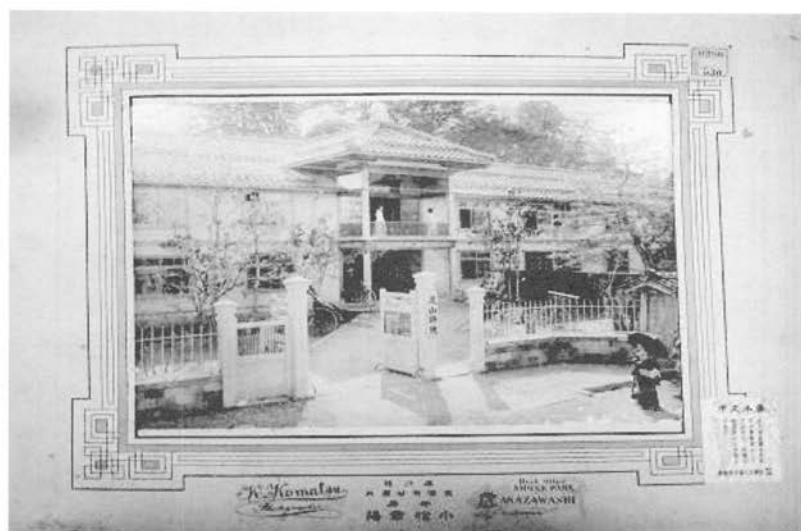


写真7. 尾山病院正門，明治34年9月，小松幸陽撮影，  
金沢市立玉川図書館近世史料館蔵。



写真8. 尾山病院の職員集合写真，明治34年9月，小松幸陽撮影，金沢市立  
玉川図書館近世史料館蔵。再開した尾山病院の職員達。前列左から三人目は藤本純吉  
病院長，次ぎは伍堂卓爾前病院長，その次ぎは不破鎖吉医師である。



写真9. 大田美農里翁・七十七才記念会，明治40年，  
上田兄弟館撮影，金沢市立玉川図書館近世史料館蔵。  
前より二列目のほぼ中央に大田美農里の像がある。前列  
右端から三人目は藤本純吉である。

写真10. 写真9より大田美農里像を拡大した写真。  
藍綬褒章を胸にした大田美農里である。



写真11. 春秋会記念写真，明治42年5月8日，小竹写真館撮影，  
金沢市立玉川図書館近世史料館蔵。

加賀衆津温泉善怡樓方開台

# 春秋會紀念撮影

米田 白太郎君 上田 計二君  
 林 與一郎君 吉田 準吉君  
 山田 忠之君 清水 衛君  
 松井 宣正君 泉君  
 村田 太次郎君 不破 鎮吉君  
 田中 守平君 藤本 純吉君  
 青藤 和三郎君 堀江 勝二君  
 國分 又勝君 山本 貞次郎君  
 金子 治郎君 中山 泉君  
 田原 利渡 末二君  
 中島 葬雄 山内 勇太郎君  
 勝見 正成 河崎 規矩君  
 明徳四十二年五月八日

勝見 正成 河崎 規矩  
 中島 葬雄 山内 勇太郎  
 田原 利渡 末二  
 庄田 喜太郎  
 金子 治郎 山本 貞次郎  
 国分 又勝 堀江 勝二  
 齊藤 和三郎 藤本 純吉  
 田中 守平  
 関川 潤吉  
 村田 太次郎 不破 鎮吉  
 中山 泉  
 松井 宣正 清水 衛  
 山田 忠之  
 足田 準吉  
 林 與一郎 上田 計二  
 米田 白太郎



小竹和一 肖像写真  
 石川県立美術館蔵

写真12. 写真11の裏面，春秋会記念撮影の参加者，氏名，写真下に氏名の記載順を映像に合わせて 修正して記載した。

写真13. 写真11を撮影した小松の写真家小竹和一の肖像写真（「石川県の華」142頁）。





伍堂卓爾



国分又勝



金子治郎



清水 衛



不破鎖吉



上田計二



山本定次郎



庄田喜太郎



藤本純吉



長嶋健吉

写真14. 医学館関係者の個人の肖像写真.

一部の10名の写真と氏名を記載した.

国分又勝, 不破鎖吉, 藤本純吉, 馬嶋健吉の写真は  
「石川県の華」より引用 (写真14).